授業科目	情報科学Ⅰ	単位／時間	1／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	大黒 佐智男
授業の目的・テーマ	パソコンの基本操作、文書作成ソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPowerPointの基礎やアプリ間の連携を学ぶ。またインターネットや電子メールの活用方を学ぶ。		
授業の到達目標	社会で必要とされるパソコンスキルを身につけ、Word・Excel・PowerPointを効果的に使える実務力をつける。インターネットや電子メールのビジネスマナーを理解し、実務的に活用する。		

授業の計画				
	1	PC室の利用方法･PCの利用と操作方法	26	【PowerPoint】単元テスト
	2	PC基本操作、効率の良い文字入力	27	【Excel･Word】アプリ間でのデータの共有
	3	【Word】基本操作	28	【Word･PowerPoint】アプリ間でのデータの共有
	4	【Word】ビジネス文書作成	29	ま と め
	5	〃	30	〃
	6	【Word】グラフィック機能	31	
	7	【Word】表のある文書の作成	32	
	8	〃	33	
	9	【Word】演習	34	
	10	【Word】 単元テスト	35	
	11	【Excel】基本操作	36	
	12	【Excel】入力と編集	37	
	13	【Excel】数式と関数	38	
	14	〃	39	
	15	【Excel】グラフ機能	40	
	16	【Excel】データベース機能	41	
	17	【Excel】演習	42	
	18	【Excel】 単元テスト	43	
	19	【PowerPoint】基本操作	44	
	20	【PowerPoint】プレゼンテーションの作成	45	
	21	〃	46	
	22	【PowerPoint】スライドショー機能	47	
	23	【PowerPoint】画面切り替えとアニメーション機能	48	
	24	【PowerPoint】プレゼンテーションの実際と技術	49	
	25	【PowerPoint】演習	50	

授業の方法	パソコンを使用した実習
テキスト/参考文献	よくわかるWord2016& Excel2016& PowerPoint2016（FOM出版）
評価の方法や基準	実技試験、提出課題、授業態度、出席率
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	民間企業、県立高等学校
実務経験の活かし方	情報処理に関する知識やパソコン等の利用技術について分かり易く解説し、個々のスキルアップに繋げる。
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参

授業科目	情報科学Ⅱ	単位／時間	１／１５ 時間
開講学科等	看護学科	担当教員	尾崎 孝彦
授業の目的・テーマ	医療・看護の中でも、今後発展して取り入れられるであろう、情報通信技術（ICT）の活用をするための基礎的能力を養う。		
授業の到達目標	情報リテラシーについて理解でき、通信技術を用いて管理と適切な使用の仕方を習得できる。		

授業の計画				
	1	情報リテラシーについて	26	
	2	〃	27	
	3	情報の管理の仕方	28	
	4	〃	29	
	5	情報管理の実際	30	
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	電子カルテの取り扱い	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	個人情報の取り扱いの実際	38	
	14	〃	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	パソコン・タブレットの使用あり
テキスト/参考文献	看護情報学（医学書院）
評価の方法や基準	提出課題、授業態度、出席率
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	〇
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキスト・筆記用具持参

授業科目	国語表現	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	生田 和恵
授業の目的・テーマ	専門学校の看護学科の学生は修学中の３年間に、各種の医療機関や施設において、多くの実習時間をこなす必要がある。その間は毎日、日誌・記録を書かなければならない。その際に書かれた文は、誰が読んでも正確で、要点が速やかに理解できる文章であることが肝要である。これは就職後も当然、現場で日々求められるものである。　物語や作文ではなく、必要な事実を正確に要領よく且つ、分かりやすい文章でどう表現するかという技術を身につけさせる。		
授業の到達目標	１、文章を書く上でのルールを習得すること。 ２、論理的で明瞭な文章力を養うこと。 ３、敬語を用いた文章を書けるようにすること。		

授業の計画				
	1	看護と文体	26	発表時間はどのくらいあるのかを確認する
	2	わかりやすく簡潔な表現	27	発表を聴くのはどのようなひとびとかを確認する
	3	段落の構造と条件	28	発表原稿をつくる
	4	トピック・センテンス:第1文に置く	29	学習のまとめ
	5	展開部:トピック・センテンスの内容を述べる	30	試験
	6	段落の立て方	31	
	7	段落の長さ	32	
	8	段落の連結	33	
	9	事実とは何か　意見とは何か	34	
	10	事実の記述　　意見の記述	35	
	11	事実と意見を書き分けるための心得	36	
	12	説得力のある文章	37	
	13	文の前半と後半をかみ合わせる	38	
	14	どこにもつながらない言葉は書かない	39	
	15	述語の共用は慎重に	40	
	16	「に」を正しく使う	41	
	17	「を」を正しく使う	42	
	18	「で」と「の」の混入を避ける	43	
	19	必要な助詞を省かない	44	
	20	列挙する時は、品詞をそろえる	45	
	21	話し言葉の影響を避ける	46	
	22	主語と述語、修飾語と被修飾語は近づける	47	
	23	漢字について	48	
	24	読点「、」は意味の切れ目に打つ	49	
	25	発表する　　主題は何かを頭に入れる	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	看護師のための文章ノート（日本看護協会出版会）
評価の方法や基準	授業中の提出課題・作成文章・試験・小テスト
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	市販の原稿用紙（400字詰め）１冊　（毎時間テキストと共に必携）

授業科目	レポート実践	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	笹岡 晴香　他
授業の目的・テーマ	自身の学びを記述の基本を守り、表現できる。		
授業の到達目標	基礎看護学実習を通しての学びを焦点をあて、レポートの基準を守り、記述することが出来る。		

授業の計画				
	1	レポートの書き方　　（笹岡）	26	
	2	テーマの選定　内容の抽出	27	
	3	ケーススタディの書き方　（森岡）	28	
	4	文献を活用した考察	29	
	5	レポート実践　　（看護学科教員）	30	
	6	基礎看護学実習「看護過程の基礎」終了後、実習場面を通してのケースレポートを記載する	31	
	7		32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	〃	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義/個人ワーク
テキスト/参考文献	看護師のための文章ノート（日本看護協会出版会）
評価の方法や基準	授業中の提出課題評価・最終作成文章の評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	教育学	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	岡谷 英明
授業の目的・テーマ	教育学の基本的な知識と考え方を習得し、さらに自ら考える力を修得することを目指す。		
授業の到達目標	教育学に係る基本的知識を習得し、それらを活用して考える力を涵養する。		

授業の計画				
	1	オリエンテーション	26	近代教育の超克（２）モンテッソーリ②
	2	教育とは・教育の目的とは	27	近代教育の超克（３）シュタイナー①
	3	近代教育の問題点（１）いじめ①	28	近代教育の超克（３）シュタイナー②
	4	近代教育の問題点（１）いじめ②	29	試験
	5	近代教育の問題点（２）不登校①	30	試験
	6	近代教育の問題点（２）不登校②	31	
	7	近代教育の問題点（３）学級崩壊①	32	
	8	近代教育の問題点（３）学級崩壊②	33	
	9	近代教育の問題点（４）家庭教育①	34	
	10	近代教育の問題点（４）家庭教育②	35	
	11	近代教育の問題点（５）道徳教育①	36	
	12	近代教育の問題点（５）道徳教育②	37	
	13	近代教育思想の形成（１）ルソー①	38	
	14	近代教育思想の形成（１）ルソー②	39	
	15	近代教育思想の形成（２）ペスタロッチ①	40	
	16	近代教育思想の形成（２）ペスタロッチ②	41	
	17	近代教育思想の形成（３）ヘルバルト①	42	
	18	近代教育思想の形成（３）ヘルバルト②	43	
	19	近代教育思想の制度化（１）海外の制度①	44	
	20	近代教育思想の制度化（１）海外の制度②	45	
	21	近代教育思想の制度化（２）日本の制度①	46	
	22	近代教育思想の制度化（２）日本の制度②	47	
	23	近代教育の超克（１）デューイ①	48	
	24	近代教育の超克（１）デューイ②	49	
	25	近代教育の超克（２）モンテッソーリ①	50	

授業の方法	講義を中心に行い、ディスカッションを行うこともある。
テキスト/参考文献	『新初等教育原理』（福村出版）／『新教育原理・教師論』（福村出版）
評価の方法や基準	出席状況、授業態度（ディスカッション）、筆記試験を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」欄を参照すること。

授業科目	心理学	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	古口 高志
授業の目的・テーマ	医療看護の基礎として心理学に関する基礎的知識や技能を習得し、看護に必要な人間理解や対人援助の実際を学ぶ		
授業の到達目標	心理学に関する基礎的知識や技能を確実に身に付け、日常生活における人間理解（自己理解や他者理解）や看護における対人援助の方法を習得する。		

授業の計画				
	1	（第1章）心理学とは	26	（第10章）心理臨床
	2	対人援助と心理学	27	心理臨床と臨床心理学　心の適応と不適応
	3	心理学の歴史　心理学の研究方法	28	（第11章）医療・看護と心理
	4	（第2章）感覚と知覚	29	試験
	5	外界を理解する心のはたらき	30	〃
	6	感覚のしくみとはたらき／近くのしくみと働き	31	
	7	（第3章）記憶　記憶のメカニズム	32	
	8	感覚・短期記憶と作業記憶	33	
	9	長期記憶と忘却	34	
	10	（第4章）思考・言語・知能	35	
	11	思考　言語とコミュニケーション　知能	36	
	12	（第5章）学習とは　古典的条件つけ	37	
	13	オペラント条件つけと学習の理論	38	
	14	社会的学習と効果的な学習方法	39	
	15	（第6章）感情と動機づけ	40	
	16	感情の諸相　感情のメカニズム	41	
	17	動機づけ　動機づけの理論	42	
	18	（第7章）性格とパーソナリティ	43	
	19	性格とは　性格の理論　性格の測定	44	
	20	（第8章）社会と集団	45	
	21	社会的認知　態度と説得的コミュニケーション	46	
	22	対人関係と対人魅力　集団とリーダーシップ	47	
	23	（第9章）発達	48	
	24	発達とは　乳幼児の発達		
	25	児童・青年の発達　成人・高齢者の発達		

授業の方法	講義形式
テキスト/参考文献	看護学生のための心理学（医学書院）/必要に応じて紹介する予定
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、レポート、期末筆記試験により総合的に評価する
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」欄を参照すること。

授業科目	倫理学	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科1年	担当教員	佐藤 章
授業の目的・テーマ	①古代から現代までの倫理思想を学び、自己の存在意義や人生の意味について考え、より良い社会、人生の実現のために努めることができるようになる。②現代の倫理的課題（生命倫理、環境問題・人権問題等）について、倫理的見地から考察し、日常生活や職場で正しい判断ができるようになる。		
授業の到達目標	①現代社会において、政治、経済、社会（福祉、教育、医療等）の分野の諸問題について、倫理的見地から考察し、正しい判断ができ、自己のより良い生き方や社会のあり方を目指すことができるようになる。②過去の倫理思想を手がかりとして、人生の意味を考え、社会や人々の幸福の実現のために努める生き方ができるようになる。		

授業の計画				
	1	序章「現代社会と自己への道」：倫理学とは？　１自己の発見　２他者との出会い　３社会に生きる自己　４人生の意味を求めて（職業倫理）	17	
			18	
	2	第１章「思索の源流」１哲学と思索　①哲学とは何か　②古代ギリシアの思想　ソクラテス：善く生きること	19	
			20	
	3	１の②古代ギリシアの思想　プラトン：理想を求めて、アリストテレス：幸福と習慣	21	
			22	
	4	１の③ヘレニズムの思想　２宗教と祈り①宗教とは何か	23	
			24	
	5	２の②キリスト教　③キリスト教の発展	25	
	6	２の④イスラーム教　⑤仏教	26	
	7	２の⑥大乗仏教の展開 第２章「西洋の近代思想」１人間の尊厳①ルネサンスと近代的人間像　②宗教改革と信仰の心	27	
			28	
	8	１の③モラリストの人間観察　２近代科学の考え方①近代科学の誕生　②経験論と合理論	29	
			30	
	9	４近代の理性的な人間像①カントと人格の尊厳	31	
	10	４の②ヘーゲルと精神の発展　５人間と働くこと①社会主義の思想　②自由で公正な社会像	32	
			33	
	11	６幸福と創造的知性①功利主義と幸福の追求　②プラグマティズムと創造的知性	34	
			35	
	12	７真実の自己を求めて①実存としての自己　②現代の実存主義	36	
			37	
	13	第４章「現代の倫理的課題」１科学技術の発展と生命①科学技術と生命倫理　②遺伝子の操作　③生殖医療の課題	38	
			39	
	14	１の④脳死と臓器移植　⑤安楽死と尊厳死　ターミナルケア　２地球環境問題と私たち	40	
			41	
	15	試験	42	
	16		43	

授業の方法	一斉講義形式、グループ討議
テキスト/参考文献	小寺聡編『もういちど読む山川倫理』山川出版1500円＋税
評価の方法や基準	レポート50%、試験50%
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	高知県立高等学校社会科教員（倫理、現代社会、政治･経済、日本史、世界史、地理） 徳島文理大学教員（倫理学、教職科目）
実務経験の活かし方	過去の思想を、身近な事例や社会的出来事、自分自身に当てはめて考え、自己の生き方や実生活に生かせることができるよう、指導、支援を行う。
履修上の注意事項	①教科書、講義レジュメ、ノート、配付資料は毎時間持参して下さい。②グーグルクラスルームを活用します。毎回講義の出席確認と振り返り、必要に応じて、講義レジュメ、レポート、確認問題等の様式送付や週の間に連絡事項がある場合にも送らせてもらいます。またレポートも頻繁に出してもらいます。

授業科目	人体の構造と機能Ｉ	単位／時間	２／６０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	田口　尚弘
授業の目的・テーマ	人体の構成・形態と構造を系統的に理解する。		
授業の到達目標	人体の構成・形態と構造を系統的に理解できる。		

授業の計画				
	1	解剖生理学のための基礎知識　（第１章）	26	〃
	2	〃	27	〃
	3	〃	28	〃
	4	〃	29	体液の調整と尿の生成　（第5章）
	5	身体の支持と運動　（第7章）	30	〃
	6	〃	31	〃
	7	〃	32	〃
	8	〃	33	〃
	9	〃	34	〃
	10	〃	35	〃
	11	栄養の消化と吸収　（第2章）	36	〃
	12	〃	37	情報の受容と処理　（第8章）
	13	〃	38	〃
	14	〃	39	〃
	15	〃	40	〃
	16	〃	41	〃
	17	呼吸と血液のはたらき　（第3章）	42	〃
	18	〃	43	〃
	19	〃	44	〃
	20	〃	45	内臓機能の調節　（第6章）
	21	〃	46	〃
	22	〃	47	〃
	23	血液の循環とその調整　（第4章）	48	〃
	24	〃	49	〃
	25	〃	50	〃

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）解いてわかる解剖生理学（医学教育出版社）/１.ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	人体の構造と機能Ⅰ	単位／時間	２／６０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	田口　尚弘
授業の目的・テーマ	人体の構成・形態と構造を系統的に理解する。		
授業の到達目標	人体の構成・形態と構造を系統的に理解できる。		

授業の計画				
	1	身体機能の防御と適応　（第9章）	26	
	2	〃	27	
	3	〃	28	
	4	〃	29	
	5	生殖・発生と老化のしくみ　（第10章）	30	
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	まとめ	34	
	10	試験	35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）解いてわかる解剖生理学（医学教育出版社）／１.ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ	単位／時間	２／６０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	村田 芳博
授業の目的・テーマ	・生命維持に欠かせない人体の正常な働きとその仕組み（生理学）を学修する。 ・正常な働きが破綻した状態（疾患）、臨床検査法や看護技術を理解する基礎を養う。		
授業の到達目標	・学生が人体の生理学を他の学生に分かりやすく説明できる。 ・学生が疾患の成り立ち、臨床検査法や看護技術の一端を生理学を使って理解できる。		

授業の計画				
	1	オリエンテーション	26	3. 呼吸器系 ［1］息をする仕組み
	2	1. 基礎 ［1］人体の階層性	27	〃
	3	［2］細胞の働き	28	〃
	4	〃	29	〃
	5	〃	30	［2］ガスの交換と運搬
	6	［3］体液	31	〃
	7	〃	32	［3］呼吸運動の調節
	8	〃	33	〃
	9	［4］栄養と代謝	34	［4］血液
	10	〃	35	〃
	11	単元テスト ①（TBL）	36	単元テスト ③（TBL）
	12		37	
	13	2. 消化器系 ［1］咀嚼	38	4. 循環器系 ［1］心臓の拍動
	14	［2］嚥下	39	〃
	15	〃	40	〃
	16	［3］胃の働き	41	［2］血圧
	17	〃	42	〃
	18	［4］小腸の働き	43	［3］血圧の調節
	19	〃	44	〃
	20	〃	45	〃
	21	〃	46	〃
	22	［5］栄養素と水の吸収	47	［4］末梢組織の物質交換
	23	〃	48	〃
	24	単元テスト ②（TBL）	49	単元テスト ④（TBL）
	25		50	

授業の方法	1. 講義：対面＋オンライン（オンデマンド配信） 2. チーム基盤型学習（TBL）
テキスト/参考文献	解剖生理学（系統看護学講座）：医学書院
評価の方法や基準	単元テスト①～⑤の成績：総合評点（100点）＝個人戦30%＋団体戦50%＋応用課題20% ※この式で総合評点が60点未満の場合、筆記による再試験を実施。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	初回に配布される学修ガイドブックを参照してください。

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ	単位／時間	２／６０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	村田 芳博
授業の目的・テーマ			
授業の到達目標			

授業の計画				
	1	5. 泌尿器系 ［1］腎臓の働き	26	
	2	〃	27	
	3	〃	28	
	4	〃	29	
	5	［2］人体の水分出納	30	
	6	〃	31	
	7	［3］酸塩基平衡	32	
	8	〃	33	
	9	単元テスト ⑤（TBL）	34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	
テキスト/参考文献	
評価の方法や基準	
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	疾病理解と看護学的視点	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	井上 和代・山崎 皓太　他
授業の目的・テーマ	看護過程・臨床判断能力の育成に向けて、専門基礎科目を活用し、疾患を持つ患者に添った看護をアセスメントできる能力を養う。		
授業の到達目標	病態の理解とその観察点をあげ、アセスメントし、適切な看護を考えることができる。		

授業の計画				
	1	疾患を持つ患者の病態理解について	26	〃
	2	〃　アセスメントの仕方　　（井上）	27	発表（循環器疾患）（井上・学内教員）
	3	脳血管障害の病態とその看護（山﨑）	28	〃
	4	〃　（脳梗塞or脳出血）	29	〃
	5	〃	30	〃
	6	〃	31	
	7	循環器疾患の病態とその看護（井上）	32	
	8	〃	33	
	9	グループワーク　　（学内教員） ①脳疾患患者の関連図を作成 ②事例患者の観察項目をあげる ③事例患者の分析・解釈 ④看護の焦点 ④事例患者の看護計画立案	34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16	グループワーク　　（学内教員） ①循環器疾患患者の関連図を作成 ②事例患者の観察項目をあげる ③事例患者の分析・解釈 ④看護の焦点 ④事例患者の看護計画立案	41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23	発表（脳疾患）（山崎・学内教員）	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク　発表
テキスト/参考文献	人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学　（医学書院）／１．ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）　脳・神経（医学書院）　循環器（医学書院）
評価の方法や基準	アセスメント・計画、発表等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	臨床放射線・検査	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	巴 昭彦・徳弘 慎治　他
授業の目的・テーマ	看護の視点の活用に向けて、放射線を用いた診断や治療、生体に対する検査を理解する。		
授業の到達目標	放射線を用いた診断や治療、生体に対する検査を理解する。		

授業の計画				
	1	放射線医学のなりたちと意義	26	生体検査
	2	画像診断	27	生体検査
	3	X線診断	28	〃
	4	CT　MRI　超音波検査　核医学検査	29	試験
	5	IVR・血管造影	30	〃
	6	放射線治療	31	
	7	放射線治療総論	32	
	8	〃	33	
	9	放射線による障害と防護	34	
	10	〃	35	
	11	臨床検査の基礎　臨床検査とその役割	36	
	12	臨床検査の流れと看護師の役割	37	
	13	一般検査　尿検査　便検査　など	38	
	14	血液学的検査　赤血球沈降速度　血球検査	39	
	15	出血・凝固検査　溶血性貧血検査　骨髄検査	40	
	16	化学検査	41	
	17	血清タンパク質　血清酵素　糖代謝　脂質代謝	42	
	18	胆汁排泄関連物質　窒素化合物　骨代謝関連　腎機能検査	43	
	19	水・電解室　血液ガス分析　鉄代謝関連　など	44	
	20	免疫・血清学的検査　炎症マーカー	45	
	21	液性免疫　血球細胞表面マーカー　自己抗体	46	
	22	アレルギー　免疫学的妊娠反応　腫瘍マーカー　輸血に関する検査	47	
	23	内分泌学的検査	48	
	24	微生物学的検査	49	
	25	病理学的検査	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	臨床検査・臨床放射線医学（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキストは必ず購入する。単元ごとに小テストを行う。

授業科目	栄養学	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	津野 美保・大坪 豊寿
授業の目的・テーマ	人体の成り立ちと栄養の基礎となる生化学及び人間にとっての栄養と食事療法について理解する。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画				
	1	人間栄養学と看護	26	疾病別食事療法　　腎臓病患疾
	2	人間栄養学と看護	27	疾病別食事療法　　小児疾患その他
	3	人間栄養学と看護	28	栄養補給法
	4	栄養素の種類とはたらき　糖質	29	食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイドその他
	5	栄養素の種類とはたらき　脂質	30	試験
	6	栄養素の種類とはたらき　たんぱく質	31	
	7	栄養素の種類とはたらき　ビタミン	32	
	8	栄養素の種類とはたらき　ミネラル	33	
	9	栄養素の種類とはたらき　食物繊維・水	34	
	10	栄養素の消化・吸収	35	
	11	栄養素の消化・吸収	36	
	12	エネルギーの代謝	37	
	13	栄養素の代謝	38	
	14	栄養ケア・マネジメント	39	
	15	試験	40	
	16	栄養状態の評価・判定	41	
	17	ライフステージと栄養　乳児期・幼児期	42	
	18	ライフステージと栄養　学童期・思春期青年期	43	
	19	ライフステージと栄養　成人期	44	
	20	ライフステージと栄養　妊娠期・授乳期	45	
	21	ライフステージと栄養　更年期・高齢期	46	
	22	臨床栄養　　入院時食事療養	47	
	23	疾病別食事療法　　循環器疾患	48	
	24	疾病別食事療法　　消化器疾患	49	
	25	疾病別食事療法　　栄養・代謝疾患	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	人体の構造と機能〔３〕栄養学（医学書院）／糖尿病治療のための食品交換表（日本糖尿病学会編　文光堂）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキストは必ず購入する。単元ごとに小テストを行う。

授業科目	臨床微生物	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	日高　千晴
授業の目的・テーマ	微生物の特徴を理解し、引き起こされる疾患とその防御について理解する。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画				
	1	微生物と微生物学	26	〃
	2	細菌の性質	27	〃
	3	真菌の性質	28	〃
	4	原虫の性質	29	試験
	5	ウイルスの性質	30	〃
	6	感染と感染症	31	
	7	〃	32	
	8	感染に対する生体防御機構	33	
	9	〃	34	
	10	感染源・感染経路からみた感染症	35	
	11	感染症の検査と診断	36	
	12	感染症の治療	37	
	13	〃	38	
	14	感染症の現状と対策	39	
	15	〃	40	
	16	病原細菌と細菌感染症	41	
	17	〃	42	
	18	〃	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	病原真菌と真菌感染症	46	
	22	病原原虫と原虫感染症	47	
	23	病原ウイルスとウイルス感染症	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義、スライド
テキスト/参考文献	疾病のなりたちと回復の促進［４］　微生物学　（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	臨床薬理	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	宮村 充彦
授業の目的・テーマ	薬理作用の基礎知識、薬理の特徴、作用機序、人体への影響、薬物の管理、副作用について理解させる。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画				
	1	薬理学総論　（1）（2）	26	救急の際に使用される薬物　（1）
	2	〃　（3）（4）	27	〃　（2）
	3	〃　（5）（6）	28	漢方薬　消毒薬
	4	〃　（7）	29	試験
	5	抗感染症薬　（1）（2）	30	〃
	6	抗がん剤　（1）	31	
	7	〃　（2）	32	
	8	免疫治療薬　（1）（2）	33	
	9	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）（2）	34	
	10	末梢での神経活動に作用する薬物　（1）	35	
	11	〃　（2）	36	
	12	〃　（3）	37	
	13	中枢神経系に作用する薬物　（1）	38	
	14	〃　（2）（3）	39	
	15	〃　（4）（5）	40	
	16	心臓・血管系に作用する薬物　（1）（2）	41	
	17	〃　（3）（4）	42	
	18	〃　（5）（6）	43	
	19	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	44	
	20	〃　（1）（2）（3）	45	
	21	〃　（4）（5）	46	
	22	〃　（6）（7）	47	
	23	物質代謝に作用する薬物　（1）	48	
	24	〃　（2）	49	
	25	皮膚科用薬・眼科用薬　（1）（2）	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕　薬理学（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	専門用語が多いので、読み方等事前に調べておくこと。

授業科目	病理学	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	大迫 洋治
授業の目的・テーマ	病理学は病気の本質について勉強する科目であり、どのような原因で病気がおこり、生体にどのような変化をもたらすのか、について学習する。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画			
1	病理学で学ぶこと	26	骨・関節系の疾患
2	細胞・組織の損傷と修復	27	〃
3	〃	28	眼・耳・皮膚の疾患
4	免疫・移植と再生医療	29	試験
5	感染症	30	〃
6	循環障害	31	
7	代謝障害	32	
8	老化と死	33	
9	先天異常と遺伝性疾患	34	
10	腫瘍	35	
11	〃	36	
12	生活習慣と環境因子による生体の障害	37	
13	〃	38	
14	循環器系の疾患	39	
15	〃	40	
16	血液・造血器系の疾患	41	
17	〃	42	
18	呼吸器系の疾患	43	
19	〃	44	
20	消化器系の疾患	45	
21	〃	46	
22	腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患	47	
23	内分泌系の疾患	48	
24	脳・神経・筋肉系の疾患	49	
25	〃	50	

授業の方法	講義、スライド
テキスト/参考文献	系統看護学講座専門基礎　病理学（医学書院）　カラーで学べる病理学　（ヌーヴェルヒロカワ）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	疾病と治療Ⅰ（消化器、麻酔、乳腺疾患）	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	宇都宮 博史・長田 裕典（消化器・乳腺）、植田 咏佐（麻酔）
授業の目的・テーマ	人体の消化に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解する。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画				
	1	消化器　疾患の理解（第５章）食道の疾患	26	外科的治療を支える分野（第３章）　麻酔法
	2	胃・十二指腸疾患　（宇都宮）	27	〃　（植田）
	3	〃	28	〃
	4	〃	29	手術後の疼痛管理
	5	腸および腹膜疾患	30	試験
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	試験	35	
	11	肝臓・胆嚢の疾患　（長田）	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	〃	40	
	16	〃	41	
	17	膵臓の疾患	42	
	18	急性腹症	43	
	19	腹部外傷	44	
	20	女性生殖器　疾患の理解（第５章）乳房の疾患	45	
	21	〃　（長田）	46	
	22	〃	47	
	23	〃	48	
	24	試験	49	
	25	臨床外科看護総論 外科的治療を支える分野（第３章）　麻酔法	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	成人看護学〔5〕消化器、〔9〕女性生殖器、　臨床外科看護総論（医学書院）／必要に応じて紹介する。
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	＊麻酔（臨床外科看護総論）　＊乳腺疾患（女性生殖器）

授業科目	疾病と治療Ⅱ（呼吸器・循環器）	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	植田 咏佐(呼吸器) 有馬直輝　他（循環器）
授業の目的・テーマ	呼吸に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解できる。 循環に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解できる。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画				
	1	症状とその病態生理(第3章)自覚症状	24	症状とその病態生理(第3章)　ショック
	2	他覚症状　（植田）	25	疾患の理解(第5章) 不整脈疾患（頻脈性、徐脈性）
	3	〃	26	〃
	4	検査と治療・処置(第4章) 検査と診断の流れ	27	疾患の理解(第5章) 高血圧症・大動脈解離
	5	〃	28	疾患の理解(第5章) 動脈硬化症・メタボリック症候群
	6	呼吸機能検査	29	試験
	7	呼吸の構造と機能(第2章) 呼吸の生理	30	〃
	8	検査と治療・処置(第4章) 検査睡眠時呼吸モニタリング	31	
	9	疾患の理解(第5章) 感染症	32	
	10	〃	33	
	11	間質性肺疾患	34	
	12	気道疾患	35	
	13	〃	36	
	14	肺腫瘍	37	
	15	循環器の構造と機能(第2章) 刺激伝導系と心電図	38	
	16	〃	39	
	17	症状とその病態生理(第3章) 心雑音等主要症状	40	
	18	検査と治療(第4章) 心エコー、スワンガンツカテーテル	41	
	19	疾患の理解(第5章) 先天性心疾患ならびに心臓弁膜症	42	
	20	〃	43	
	21	疾患の理解(第5章) 虚血性心疾患、心筋症	44	
	22	〃	45	
	23	疾患の理解(第5章) 心不全肺塞栓症	46	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	成人看護学[２]呼吸器、成人看護学[３]循環器　（医学書院）／必要に応じて紹介する。
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	呼吸器(15時間)、循環器(15時間)

授業科目	疾病と治療Ⅲ　（運動器・脳神経）	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	福田　剛一（運動） 豊永　晋一（脳神経）
授業の目的・テーマ	人間の運動に関した疾患の成り立ちと回復の促進について理解する。 脳神経系に関連した疾患の成り立ちと回復の促進について理解する。		
授業の到達目標	上記参照		

授業の計画				
	1	運動器の構造と機能（第2章）　（ 福田 ）	26	中毒　てんかん
	2	診断・検査と治療・処置（第4章）	27	認知症
	3	疾患の理解（第5章）内因性（非外傷性）の運動器疾患	28	内科疾患に伴う神経疾患
	4	先天性疾患	29	試験
	5	骨・関節の炎症性疾患	30	〃
	6	骨腫瘍および軟部腫瘍	31	
	7	代謝性骨疾患	32	
	8	脊椎の疾患	33	
	9	外傷性（外因性）の運動器疾患　神経の損傷	34	
	10	〃	35	
	11	脳神経系の構造と機能（2章）、神経系の分類と機能　中枢神経（脳と脊髄）末梢神経系脳・脊髄の保護構造と循環器　（豊永）	36	
	12	症状とその病態生理（第3章） 脳・神経障害とは　おもな症状とその病態生理	37	
	13	検査・診断と治療・処置（第４章）	38	
	14	疾患の理解（第5章）脳疾患	39	
	15	〃	40	
	16	〃	41	
	17	脊髄疾患	42	
	18	末梢神経障害	43	
	19	筋疾患・神経筋接合部疾患	44	
	20	〃	45	
	21	疾患の理解（第5章）筋疾患・神経筋接合部疾患	46	
	22	脱髄・変形疾患	47	
	23	〃	48	
	24	脳・神経系の感染症	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	成人看護学〔７〕脳・神経、　〔10〕運動器　（医学書院）／ 臨床神経内科学（南山堂）脳神経外科学（南江堂）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	看護学概論	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	宮田 美紀・森田 なつ子
授業の目的・テーマ	看護の変遷と看護の基礎となる主要概念を理解すると共に看護の機能・役割を理解できる。		
授業の到達目標	看護の変遷と看護の基礎となる主要概念を理解すると共に看護の機能・役割を理解する。		

授業の計画				
	1	看護を学ぶにあたって　（宮田）	26	医療安全（医療安全と法・制度　（森田）
	2	看護の本質	27	医療安全（看護業務の特性と医療事故防止他対策）
	3	〃	28	広がる看護の活動領域（国際化と看護）
	4	看護の役割と機能	29	広がる看護の活動領域（災害時における看護）
	5	〃	30	試験
	6	看護の継続性と連携	31	
	7	対象の理解	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	国民の健康状態と生活	35	
	11	看護の提供者	36	
	12	職業としての看護（歴史）	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	〃	40	
	16	看護の資格・養成制度・職業状況　（森田）	41	
	17	看護職者の継続教育とキャリア開発	42	
	18	看護における倫理（看護倫理）	43	
	19	看護における倫理（看護職の倫理綱領・倫理原則）	44	
	20	看護の提供のしくみ（チーム医療）	45	
	21	看護の提供のしくみ（看護サービス提供の場）	46	
	22	看護の提供のしくみ（看護サービスと経済のしくみ）	47	
	23	看護の提供のしくみ（看護の人員配置基準）	48	
	24	看護サービスの管理（看護サービスの管理とは）	49	
	25	看護サービスの管理（組織）	50	

授業の方法	講義　グループワーク
テキスト/参考文献	基礎看護学〔1〕看護学概論　（医学書院）、　超入門事例で学ぶ看護理論　（学研）
評価の方法や基準	筆記試験・グループワーク等授業中の態度・出欠状況等で総合評価する
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護学概論に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。

授業科目	看護の基本技術Ⅰ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川崎 綾・小松 美奈子 野川 洋枝
授業の目的・テーマ	看護実践の基礎となる基本技術を根拠を持って、習得できる。		
授業の到達目標	看護の基本技術の根拠を理解し、安全で確実な技術の習得ができる。		

授業の計画				
	1	看護技術を学ぶにあたって　（川崎）	26	〃　（小松）
	2	〃	27	罨法
	3	(第1章)コミュニケーション　（川崎）	28	〃
	4	〃	29	試験
	5	〃	30	〃
	6	〃	31	
	7	(第2章)感染防止の技術　（小松）	32	
	8	感染とその予防の基礎知識	33	
	9	標準予防策　感染経路別予防策	34	
	10	洗浄・消毒・滅菌	35	
	11	無菌操作	36	
	12	〃	37	
	13	感染廃棄物の取り扱い	38	
	14	〃	39	
	15	感染対策の実際　（野川）	40	
	16	〃	41	
	17	(Ⅱ．第4章)活動・休息援助技術　（小松）	42	
	18	基本的活動の援助	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	〃	46	
	22	〃	47	
	23	(基礎看護技術Ⅱ第5章)苦痛の緩和・安全確保技術	48	
	24	体位保持	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習	
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）、看護がみえる①　②（ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ）	
評価の方法や基準	自己学習、筆記試験、授業・演習態度を総合的に評価する。	
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する		〇
実務経験	医療現場での看護業務	
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護の基本技術に関する基本的知識を講義する	
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。	

授業科目	看護の基本技術Ⅱ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川崎 綾・小松 美奈子 他
授業の目的・テーマ	看護実践の基礎となる基本技術を根拠を持って、習得できる。		
授業の到達目標	看護の基本技術の根拠を理解し、安全で確実な技術の習得ができる。		

授業の計画				
	1	ヘルスアセスメント（Ⅰ,第2章）　（小松）	26	看護技術演習　（川崎・原田）
	2	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	27	〃
	3	バイタルサインの測定	28	〃
	4	（体温・脈拍・呼吸・血圧）	29	試験
	5	〃	30	〃
	6	〃	31	
	7	看護記録（Ⅰ,第5章）　（川崎）	32	
	8	看護記録とは記載・管理における留意点	33	
	9	看護記録の構成、経過記録、報告	34	
	10	体温表	35	
	11	ＳＯＡＰの方法	36	
	12	〃	37	
	13	学習支援（Ⅰ,第5章）　（寺村）	38	
	14	看護における学習支援	39	
	15	健康に生きることを支える学習支援	40	
	16	〃	41	
	17	健康状態の変化に伴う学習支援	42	
	18	〃	43	
	19	学習支援の実際	44	
	20	〃	45	
	21	看護技術演習　（川崎・原田）	46	
	22	〃	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）、看護がみえる①　②（ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ）
評価の方法や基準	自己学習、筆記試験、授業・演習態度を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護の基本技術に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。

授業科目	日常生活援助技術Ⅰ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川添 悦子・小松 美奈子
授業の目的・テーマ	人間のニードと生活行動を理解し、看護行為の基本となる日常生活援助の知識・技術・態度を習得できる。		
授業の到達目標	日常生活援助に対する知識・安全に実施できる技術の方法・望まれる態度を理解できる。		

授業の計画				
	1	環境調整技術（Ⅱ第1章）（川添）	26	排便を促す援助
	2	援助の基礎技術	27	〃
	3	〃	28	〃
	4	援助の実際	29	試験
	5	ベッド周囲の環境調整	30	〃
	6	病床を整える	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	食事援助技術（Ⅱ　第2章）（小松）	36	
	12	食事援助の基礎技術	37	
	13		38	
	14	〃	39	
	15	摂食・嚥下訓練	40	
	16	〃	41	
	17	非経口的栄養摂取の援助	42	
	18	〃	43	
	19	排泄援助技術(Ⅱ　第3章)　（川添）	44	
	20	自然排尿および自然排便の介助	45	
	21	〃	46	
	22	〃	47	
	23	導尿	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）、看護がみえる①　②（ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ）
評価の方法や基準	自己学習、筆記試験、技術、レポート等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川添 悦子　他
授業の目的・テーマ	人間のニードと生活行動を理解し、看護行為の基本となる日常生活援助の知識・技術・態度を習得できる。		
授業の到達目標	日常生活援助に対する知識・安全に実施できる技術の方法・望まれる態度を理解できる。		

授業の計画				
	1	(Ⅱ,第6章)清潔・衣生活援助技術　（川添）	26	病衣・寝衣の交換
	2	清潔の援助の基礎知識	27	〃
	3	〃	28	〃
	4	清潔援助の実際	29	試験
	5	入浴・シャワー浴	30	〃
	6	全身清拭	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	洗髪	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	手浴	39	
	15	〃	40	
	16	足浴とフットケア	41	
	17	〃	42	
	18	〃	43	
	19	〃	44	
	20	整容	45	
	21	口腔ケア　（宮田）	46	
	22	〃	47	
	23	病床での衣生活の援助　（川添）	48	
	24	援助の基礎知識	49	
	25	援助の実際	50	

授業の方法	講義　グループワーク
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）、看護技術がみえる①　②（ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ）
評価の方法や基準	筆記試験、技術、レポート等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	〇
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活援助技術に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。

授業科目	フィジカルアセスメント	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	吉川 美穂
授業の目的・テーマ	看護に重要な観察の基本的知識について学び、対象の健康状態の把握方法を習得する		
授業の到達目標	フィジカルアセスメントの意義を理解し、身体各部の観察の具体的方法を学習する 心理・社会的状態も含めた、対象のセルフケア能力をアセスメントすることができる		

授業の計画				
	1	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント	26	外皮系のフィジカルアセスメント
	2	〃	27	心理的側面のアセスメント
	3	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	28	社会的側面のアセスメント
	4	〃	29	試験
	5	全体の概観	30	〃
	6	フィジカルアセス目tのに必要な技術	31	
	7	全身状態・全体印象の把握	32	
	8	バイタルサインの観察とアセスメント	33	
	9	系統別フィジカルアセスメント	34	
	10	身体計測の理解及び演習	35	
	11	各部の計測の意義、使用物品など	36	
	12	呼吸器系のフィジカルアセスメント	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	循環器系のフィジカルアセスメント	40	
	16	〃	41	
	17	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	42	
	18	〃	43	
	19	腹部のフィジカルアセスメント	44	
	20	〃	45	
	21	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	46	
	22	〃	47	
	23	神経系のフィジカルアセスメント	48	
	24	〃	49	
	25	頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント	50	

授業の方法	講義　技術演習
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ（医学書院）、看護がみえる③フィジカルアセスメント（メディックメディア）
評価の方法や基準	筆記試験・実技試験、授業・演習態度を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントに関する基本的知識を教授する
履修上の注意事項	演習に際しては、実習に準ずる。事前に自己学習をして臨むこと。

授業科目	看護過程	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	岩城 ゆかり・川崎 綾 他
授業の目的・テーマ	看護実践の基礎となる問題解決過程とその展開方法を理解できる。		
授業の到達目標	看護実践にむけて問題解決過程とその展開方法を理解する。		

授業の計画				
	1	看護過程とは　看護過程と問題解決過程（川崎）	26	看護計画の実施・評価
	2	看護過程の構成要素①看護理論と情報収集　②分析解釈 ③全体像/関連図　看護問題　　の明確化④看護計画の立案　⑤実施・評価	27	〃
	3		28	〃
	4	ゴードンの機能的健康パターンの理解（アセスメントの枠組みの理解）	29	試験
	5		30	〃
	6	情報収集と記入　データベースの記載	31	
	7	分析・解釈　　（川崎/原田）	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	関連図の描き方　　（岩城）	40	
	16	〃	41	
	17	〃	42	
	18	〃	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	看護問題の明確（焦点）化	46	
	22	〃（看護問題リストの作成）	47	
	23	看護計画の立案	48	
	24	〃	49	
	25	看護計画の実施・評価　（川崎）	50	

授業の方法	講義　グループワーク
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ（医学書院）／疾患別看護過程（Gakken）　看護技術の患者への適応（メヂカルフレンド社）
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度、課題への取り組み、課題提出状況など総合的に評価する
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	〇
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護過程に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	自己学習が重要

授業科目	臨床看護総論	単位／時間	1／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	小笠原 恵子・寺岡 美千代
授業の目的・テーマ	障害・疾病をもつ対象を理解し、対象の状態に応じた看護について理解できる。		
授業の到達目標	症状のメカニズムについて理解し、健康障害のある対象の状態に応じた看護について理解する。		

授業の計画				
	1	悪心・嘔吐　（寺岡）	26	痙攣　（小笠原）
	2	〃	27	腹痛・胸痛
	3	黄疸	28	〃
	4	〃	29	試験
	5	便秘	30	〃
	6	下痢	31	
	7	多尿・乏尿・無尿	32	
	8	〃	33	
	9	発熱	34	
	10	〃	35	
	11	浮腫	36	
	12	〃	37	
	13	脱水	38	
	14	〃	39	
	15	不眠	40	
	16	〃	41	
	17	吐血・下血　（小笠原）	42	
	18	〃	43	
	19	呼吸困難	44	
	20	咳嗽・痰	45	
	21	高血圧・低血圧	46	
	22	動悸	47	
	23	意識障害	48	
	24	〃	49	
	25	痙攣	50	

授業の方法	講義　演習　グループワーク　レポート
テキスト/参考文献	看護過程に沿った対症看護　（学研）　臨床看護総論（医学書院）
評価の方法や基準	課題　筆記試験
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	〇
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、臨床看護に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。

授業科目	基礎看護学実習（環境と対象の理解）	単位／時間	１／４０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川崎 綾・原田 和恵
授業の目的・テーマ	病院における環境と患者について理解し、看護の役割を考えることができる。		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画				
	1	目標 １）入院患者をとりまく環境を知る。 ２）入院患者の生活環境を整えることができる。 ３）入院している患者を知る。 ４）看護の機能と看護活動を知る。 ５）看護学生に求められる態度について考えることができる。 内容、方法、評価については実習要項を別途配布する。目標 １）入院患者をとりまく環境を知る。 ２）入院患者の生活環境を整えることができる。 ３）入院している患者を知る。 ４）看護の機能と看護活動を知る。 ５）看護学生に求められる態度について考えることができる。 内容、方法、評価については実習要項を別途配布する。	26	左の目標に向けて、適切な計画のもと病院実習を４０時間実施する。
	2		27	
	3		28	
	4		29	
	5		30	
	6		31	
	7		32	
	8		33	
	9		34	
	10		35	
	11		36	
	12		37	
	13		38	
	14		39	
	15		40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	臨地実習　知赤十字病院　近森リハビリテーション病院　高知病院　愛宕病院　島津病院		
テキスト/参考文献			
評価の方法や基準	提出物、実習内容、出席等を総合的に評価する。		
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、基礎看護学実習（環境と対象の理解）に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。		
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。		

授業科目	基礎看護学実習（看護過程の基礎）	単位／時間	２／８０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川崎 綾・原田 和恵
授業の目的・テーマ	看護過程展開の基本を理解し、基礎的な看護技術が実践できる。		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画				
	1	目標 １）患者を理解し、援助の必要性が判断できる。 ２）患者の看護上の問題を明らかにし、援助計画が立案できる。 ３）患者に適した看護援助が分かる。 ４）患者とのコミュニケーションがとれる。 ５）看護学生として適切な態度がとれる。 内容、方法、評価については実習要項を別途配布する。 上の目標達成に向けて、適切な計画のもと、病院実習を８０時間実施する。		
	5			
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45			
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			

授業の方法	臨地実習　高知赤十字病院　近森リハビリテーション病院　高知病院　愛宕病院　島津病院	
テキスト/参考文献		
評価の方法や基準	提出物、実習内容、出席等を総合的に評価する。	
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する		○
実務経験	医療現場での看護業務	
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、基礎看護学実習（看護過程の基礎）に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。	
履修上の注意事項	準備・課題などを計画的に進めていくこと。	

授業科目	地域の学習Ⅰ	単位／時間	１／４０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	下村 美佳子
授業の目的・テーマ	地域でさまざまな暮らし方をしている人々と接し、生活者としての対象の理解を深める事ができる。		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画	
2	＜保健所実習目標＞
4	１．　地域における人々の暮らしや健康を支える社会の基盤を知る。
6	１）　保健所の機能を知る。
8	２）　保健所の事業を知る。
10	３）保健所の意義・役割を知る。
12	２．地域保健活動の実際を知る。
14	１）地域における健康問題を知る。
16	２）地域における健康管理の実際を知る。
18	＜施設実習目標＞
20	１．地域の人々の暮らしを知り、地域の特性が暮らしに与える影響を理解する。
22	１）対象者の暮らしを知る。
24	２）対象者の暮らす地域の特性を知る。
26	２．対象者との関係構築に繋がるコミュニケーションを取ることができる。
28	１）対象者を尊重することができる。
30	２）対象者と関係構築に繋がるコミュニケーションを取ることができる。
32	３．自己の行動を振り返り看護師としての基本的姿勢と態度を考えることができる。
34	１）実習に協力する対象者から見て学習意欲や真摯な姿勢が伝わる態度・身だしなみができる。
36	２）実習を通して看護師としての基本的姿勢と態度を振り返ることができる。
38	
40	

授業の方法	臨地実習
テキスト/参考文献	
評価の方法や基準	提出物、実習内容、出席等を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	準備・課題などを計画的に進めていくこと。

授業科目	地域とくらし	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	高野 隆司
授業の目的・テーマ	暮らしを理解するとともに、人々が暮らす生活の基盤である地域を理解する。		
授業の到達目標	暮らしを理解するとともに、人々が暮らす生活の基盤である地域を理解することができる。		

授業の計画				
	1	人々の暮らしの理解	26	
	2	暮らしとは	27	
	3	暮らしを構成するもの	28	
	4	1人ひとりの異なる暮らし	29	
	5	暮らしと地域	30	
	6	地域の定義	31	
	7	人々の暮らす地域の多様性	32	
	8	〃	33	
	9	暮らしと地域を理解するための考え方	34	
	10	システム理論・システム思考	35	
	11	地域包括ケアシステムと地域共生社会	36	
	12	地域包括ケアシステム	37	
	13	地域共生社会	38	
	14	演習：地域を理解する	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義　演習
テキスト/参考文献	参：地域・在宅看護の基盤（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	事前・事後学習が重要

授業科目	成人看護学概論	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	寺村 妙
授業の目的・テーマ	成人期にある対象の特徴を理解し、看護の機能と視点を理できる。		
授業の到達目標	成人期にある対象の特徴を理解し、看護の機能と視点を理解する。		

授業の計画				
	1	第1章　成人と生活 ① 対象の理解；大人になること、大人であること	26	〃
	2		27	〃
	3	〃	28	〃
	4	② 対象の生活；働いて生活を営むこと	29	試験
	5	第2章　生活と健康 ① 大人の生活からとらえる健康	30	〃
	6	〃	31	
	7	② 生活と健康を守り育むシステム	32	
	8	〃	33	
	9	第3章　成人への看護アプローチの基本 ① 生活の中で健康行動を生み、育む援助	34	
	10	② 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係他	35	
	11	③ 意思決定支援、家族支援	36	
	12	第4章　ヘルスプロモーションと看護	37	
	13	〃	38	
	14	第5章　健康をおびやかす要因と看護	39	
	15	〃	40	
	16	第6章　健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	41	
	17		42	
	18	〃	43	
	19	第7章　健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	44	
	20	〃	45	
	21	第8章　障害がある人の生活とリハビリテーション	46	
	22	〃	47	
	23	第10章　学習者である患者への看護技術	48	
	24	〃	49	
	25	第13章　退院支援の看護技術	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	成人看護学〔１〕　成人看護学総論　（医学書院）／必要に応じて紹介
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度、課題提出状況など総合的に評価する
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	現場での保健・看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護学概論に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄を参照のこと

授業科目	成人看護方法論Ⅰ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	坂本 寛子・大崎 杏奈 山野上 慈
授業の目的・テーマ	急性期及び回復期にある対象の特徴と健康上の問題を理解し、必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得できる。		
授業の到達目標	急性期及び回復期にある対象の特徴と健康上の問題を理解する。 急性期及び回復期にある対象への必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得する。		

授業の計画				
	1	急性期にある患者と家族の特徴と看護　（坂本）	26	大腿骨頸部骨折患者の看護
	2	患者/家族の特徴（身体的特徴・心理的特徴・社会的特徴）	27	〃
	3	急性期における看護の基本 危機的状態への精神的支援　治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援	28	〃
	4		29	試験
	5	呼吸機能障害のある患者の看護(治療・検査)	30	〃
	6	肺炎患者の看護	31	
	7	〃	32	
	8	気管支喘息患者の看護	33	
	9	循環器機能障害のある患者の看護　（大崎）	34	
	10	虚血性心疾患患者の看護	35	
	11	不整脈患者の看護	36	
	12	〃	37	
	13	脳・神経機能障害のある患者の看護	38	
	14	脳血管障害を持つ患者の看護	39	
	15	〃	40	
	16	〃	41	
	17	消化・吸収機能障害のある患者の看護（山野上）	42	
	18	上部・下部消化管腫瘍のある患者の看護	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	胃食道逆流症/胃・十二指腸潰瘍患者の看護	46	
	22	〃	47	
	23	胆嚢炎・胆石症患者の看護	48	
	24	〃	49	
	25	運動機能障害のある患者の看護（山野上）	50	

授業の方法	講義　演習
テキスト/参考文献	成人看護学[2]～[11]　（医学書院）／必要に応じて紹介する。
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護援助[急性期]に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	事前・事後学習が重要

授業科目	成人看護方法論Ⅱ	単位／時間	２／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	笹山淳子、竹澤睦子、河野さゆり、内川佳世 石川由紀、宮田洋、濱田一豊
授業の目的・テーマ	慢性期にある対象の活動・休養・恒常性の維持に関した障害を理解し、その援助を修得できる。		
授業の到達目標	慢性期にある対象の活動・休養・恒常性の維持に関した障害を理解し、その援助を修得する。		

授業の計画				
	1	慢性疾患がある患者と家族の特徴と看護（笹山）	26	〃　肺がん患者の看護　（笹山）
	2	消化器疾患をもつ患者の看護（消化器6章）(河野)	27	〃
	3	潰瘍性大腸炎患者の看護	28	腎・泌尿器(第6章)　患者の看護（竹澤）
	4	クローン病患者の看護	29	慢性腎不全をもつ患者の経過と看護
	5	〃	30	〃
	6	急性肝炎患者の看護　（石川）	31	〃
	7	〃	32	透析療法を受ける患者の看護
	8	慢性肝炎患者の看護	33	〃
	9	〃	34	膠原病をもつ患者の看護　（笹山）
	10	肝硬変患者の看護	35	〃
	11	〃	36	アレルギー患者の看護　（笹山）
	12	内分泌疾患患者の看護（内分泌・代謝 6章）	37	血液・造血器患者の看護(第５章)（内川）
	13	甲状腺疾患患者の看護　副腎疾患患者の看護	38	造血器腫瘍患者の看護
	14	代謝性疾患患者の看護（内分泌・代謝6章）	39	白血病・悪性リンパ腫患者の看護
	15	脂質異常症患者の看護/尿酸代謝異常患者の看護	40	〃
	16	糖尿病患者の看護　（濱田）	41	〃
	17	〃	42	〃
	18	〃	43	試験①
	19	〃	44	試験②
	20	〃	45	〃
	21	〃	46	
	22	循環器疾患をもつ患者の看護（循環器6章）（宮田）	47	
	23	〃　心不全患者の看護	48	
	24	呼吸器疾患をもつ患者の看護（呼吸器6章）（宮田）	49	
	25	〃　慢性閉塞性肺疾患患者の経過と看護	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	系統看護学講座　成人看護学[2]～[14]　（医学書院）／必要時紹介する。
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度、課題提出状況など総合的に評価する
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護学援助[慢性期]に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	事前・事後学習が重要

授業科目	成人看護方法論Ⅲ	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	坂本 寛子・上田 純子
授業の目的・テーマ	周手術期にある対象の特徴と健康上の問題を理解し、必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得できる。		
授業の到達目標	周手術期にある対象の特徴と健康上の問題を理解する。 周手術期にある対象への必要な援助を提供できる知識・技術・態度を修得する。		

授業の計画				
	1	手術を受ける患者の看護	26	
	2	手術侵襲と生体反応（臨床外科看護総論 第1章）	27	
	3	〃　手術侵襲をその看護	28	
	4	炎症/感染症　創傷治癒	29	
	5	術後疼痛とその看護（臨床外科看護総論 第9章）	30	
	6	〃	31	
	7	周術期看護の概論（臨床外科看護総論 第6章）	32	
	8	手術前患者の看護（臨床外科看護総論 第7章）	33	
	9	手術中患者の看護（臨床外科看護総論 第8章）	34	
	10	〃	35	
	11	手術後患者の看護（臨床外科看護総論 第9章）	36	
	12	〃	37	
	13	呼吸器の手術療法を受ける患者の看護（呼吸器6章）	38	
	14	〃	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	臨床看護外科総論（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、成人看護援助[周手術期]に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特になし。

授業科目	老年看護学概論	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	谷脇 佐織・吉川 美穂
授業の目的・テーマ	老年期にある対象の加齢に伴う変化と高齢者を取り巻く社会制度と課題について理解し、高齢者に対する看護の役割について学ぶ。		
授業の到達目標	老年期にある対象の加齢に伴う変化と高齢者を取り巻く社会制度と課題について理解し、高齢者に対する看護の役割を理解できる。		

授業の計画				
	1	老いを生きるとは　（谷脇）	26	〃
	2	老いを学ぶ入り口	27	老年看護のなりたち
	3	老いるということ	28	〃
	4	老いを生きるということ	29	試験
	5	超高齢社会と社会保障	30	〃
	6	超高齢社会の統計的輪郭	31	
	7	〃	32	
	8	高齢社会における保健医療福祉の動向	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	〃	36	
	12	高齢者の権利擁護	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	高齢者のヘルスアセスメント（吉川）	40	
	16	ヘルスアセスメントの基本	41	
	17	〃	42	
	18	〃	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	身体の加齢変化とアセスメント	46	
	22	〃	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義、グループワーク
テキスト/参考文献	老年看護学、老年看護　病態・疾患論　（医学書院）
評価の方法や基準	出席状況、筆記試験
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護学概論に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	事前・事後学習が重要

授業科目	老年看護方法論Ⅰ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	吉川 美穂・谷脇 佐織・松高 ゆり
授業の目的・テーマ	老年期にある対象の生命・機能の維持及びＱＯＬの視点から看護の必要性を判断し、看護が実践できるための知識を学ぶ。		
授業の到達目標	老年期にある対象の生命・機能の維持及びＱＯＬの視点から看護の必要性を判断し、看護が実践できるための知識が理解できる。		

授業の計画				
	1	高齢者の生理的特徴（老年看護病態・疾患論1章）（谷脇）	26	せん妄
	2	〃	27	認知症
	3	〃	28	認知症をもつ高齢者の看護　（松高）
	4	老年症候群（老年看護病態・疾患論２章）	29	〃
	5	〃	30	試験
	6	〃	31	
	7	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価（老年看護病態・疾患論３章）	32	
	8		33	
	9	〃	34	
	10	高齢者の疾患の特徴（老年看護病態・疾患論4章）	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	高齢者と薬（老年看護病態・疾患論５章）	38	
	14	高齢者のリハビリテーション（老年看護病態・疾患論６章）	39	
	15	健康逸脱からの回復を促す看護（老年看護学第６章）（吉川）	40	
	16	褥瘡	41	
	17	脳卒中	42	
	18	〃	43	
	19	パーキンソン	44	
	20	インフルエンザ	45	
	21	肺炎	46	
	22	骨粗鬆症	47	
	23	脊椎圧迫骨折	48	
	24	大腿骨頸部骨折	49	
	25	うつ	50	

授業の方法	講義・演習・プレゼンテーション	
テキスト/参考文献	老年看護学、老年看護 病態・疾患論、生活機能からみた老年看護過程（医学書院）／ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　老年看護学　高齢者の健康と障害など	
評価の方法や基準	出席状況、学習態度、筆記試験等を総合して評価する。 演習への参加状況　課題の発表態度	
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する		○
実務経験	医療現場での看護業務	
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、老年看護援助に関する基本的知識を講義する	
履修上の注意事項	可能な限り自主的に身近な高齢者の方との関わりを持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。プレゼンテーションの日程と内容は変更もあり。教科書及び参考文献を活用する。指示された課題の提出日を守る。学生間で積極的に意見交換を行うこと。	